

第2回 沖永良部島シンポジウム ～懐かしい未来をつくる沖永良部のこころ～

『あしび、あしび、いっぺあしび!』

(遊べや、遊べ、もっと遊べ!)

2010年 8月4日 (水)

13:00 ~ 17:00 (開場12:30)

沖永良部島 フローラル館

主催：NPO法人 サステナブル・ソリューションズ、知名町商工会、ものづくり生命文明機構

後援：知名町、和泊町、東北大学大学院環境科学研究科、星槎大学（星槎グループ）

Photo:古川柳蔵

碧い海に囲まれた珊瑚の島「沖永良部」、そこでは時間もゆったりと流れ、第1回シンポジウムでは「忘れていた日本がここにあった!」と本土からの参加者に言わしめた。一方では、海や地下水や大山の緑…そして人のかかわりを含め、毎年進んで行く島の環境劣化に関わる危機感もその輪郭が見えてきた。

島に今も色濃く残る日本の豊かさすばらしさ、その中で、急激に劣化する環境を保全・回復させながら、豊かな地域を創るという事はどういうことなのか? いったい何が満たされていて、何が足りないのだろうか… いろいろな切り口から、それを少しでも解いて見たい。

今回は、地域の活性化に多くの経験を有する2人のスピーカーを招き、島人(しまんちゅ)たちと懐かしい未来のための入り口を探してみたい。

プログラム

13:00~13:50

主催者開会の挨拶 【5分】 原田 孝志 (知名町商工会 会長)

来賓挨拶 【5分】 平安 正盛 (知名町長)

第1回シンポジウムを振り返る 【10分】

古川 柳蔵 (東北大学大学院環境科学研究科 准教授)

開催趣旨「江戸の粋な文化の根っこは遊びだった」 【30分】

石田 秀輝 (東北大学大学院環境科学研究科 教授)

13:50~14:50

基調講演Ⅰ「豊かな地域を考える いのちを繋ぐお金の役割から」 【30分】

吉澤 保幸 (場所文化フォーラム 代表幹事、「にっぽんの…」大店長)

基調講演Ⅱ「豊かな地域を考える 日本海学から」 【30分】

中井 徳太郎 (星槎大学客員教授、財務省理財局計画官)

— 休憩【15分】 —

15:05~15:35

「島人が考える豊かなくらし」

講演Ⅰ 芋高 生三 【15分】

講演Ⅱ 山下 芳也 【15分】

— 休憩【10分】 —

15:45~16:55

パネル討論会「あしび、あしび、いっぺあしび!」 【70分】

ファシリテーター: 石田 秀輝

パネリスト: 芋高 生三、山下 芳也、吉澤 保幸、中井 徳太郎、古川 柳蔵

16:55~17:00

主催者閉会の挨拶 【5分】 上田 真理 (ものづくり生命文明機構)

吉澤 保幸 Yasuyuki Yoshizawa



1955年新潟県上越市生れ。1978年東京大学法学部卒業、その後日本銀行での20年の勤務を経て、2001年2月からびあ(株)。現在同社顧問。MBA、税理士。場所文化フォーラム 代表幹事、「とかちの…」、「にっぽんの…」大店長。NPO法人ものづくり生命文明機構常任幹事。NPO法人健康医療開発機構理事。企業経営や税理士業務に関わる一方で、場所文化フォーラムやものづくり生命文明機構等を中心に、これまでの金融経験等を活かしながら、地域活性化のための新たな「志あるビジネス・金融モデル」や「ローカルファイナンス論」の構築を地域金融機関とも連携しつつ図ると共に、東京・丸の内・国際ビルにある場所文化レストラン「とかちの…」、「にっぽんの…」を交流拠点にした全国の地域活性化活動の連携等に注力している。

中井 徳太郎 Tokutaro Nakai

1962年生まれ。東京大学法学部卒業。1985年大蔵省入省。主計局主査(農林水産係)などを経験し、1999年から2002年まで富山県に出向。生活環境部長などを勤め、日本海学の確立・普及に携わる。2002年財務省広報室長。2004年東京大学医科学研究所教授。2006年金融庁監督局協同組織金融室長。2009年7月から財務省理財局計画官(現職)。星槎大学客員教授。ものづくり生命文明機構常任幹事。



芋高 生三 Seizo Imotaka



(株)芋高農園 代表取締役 会長 沖永良部出身。鶴丸高校卒 東京で二年半の浪人生活を経て就農。昭和52年9月9日、沖永良部台風、まさにその日、東京を発つ。“45歳で退職、楽しむ人生を”を目標に駆け足人生。現在80ha(グラジオラス・鉄砲ゆり・馬鈴薯・砂糖きび)市場・業者との直接取引。温暖な島の気候を生かした無理、無駄のない経営を徹底追及。現在、人生を謳歌中。

山下 芳也 Yoshiya Yamashita

H15年ソリダゴエコファーマー登録 環境保全型農業に着目。H17年沖永良部島ウミガメネットワーク設立 ボランティア団体として活動。現在レギュラーメンバー42名、サポーター150名で活動。ウミガメ観察会を産卵重視の観察から、陸上からのウミガメ観察・海中でのウミガメ観察へ移行中。ウミガメ活動をメインにスタークラブと連携した観察会開催。植物ツアー・浜めぐりツアー・湧水ツアー・バードウォッチング・えらぶ郷土研究会との連携など沖永良部島の自然や歴史関連の活動へ幅広く展開中。



石田 秀輝 Emile H. ishida



2004年(株)INAXを経て現職、ものづくりのパラダイムシフトに向けて国内外で多くの発信を続けている。特に、2004年からは、自然のすごさを賢く活かすあたらしいものづくり『ネイチャー・テクノロジー』を提唱、また、環境戦略・政策を横断的に実践できる社会人の人材育成や、子供たちの環境教育にも積極的に取り組んでいる。地球村研究室代表、ネイチャーテック研究会代表、サステナブル・ソリューションズ理事長、ものづくり生命文明機構理事、アースウォッチ・ジャパン理事ほか 近著;自然に学ぶ粋なテクノロジー (Dojin選書 化学同人)ほか多数。

知名町徳時に酔庵を構え、沖永良部島をこよなく愛す。

古川 柳蔵 Ryuzo Furukawa

1972年、東京生まれ。博士(学術)。東北大学大学院環境科学研究科准教授。専門は環境イノベーション。東京大学大学院工学系研究科材料学専攻修了後、民間シンクタンクを経て、2005年に東京大学大学院にて博士号取得。2005年に現職。NPO法人サステナブル・ソリューションズ理事。著作に『地球が教える奇跡の技術』(祥伝社)、『環境制約下のイノベーション - 力を持ち始めた環境ニーズ -』(東北大学出版会)がある。

